
制限速度

境康隆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

制限速度

【Nコード】

N22620

【作者名】

境康隆

【あらすじ】

制限速度。それは俺には全くもの足りないものだった

アクセルをベタ踏みにする。メーターの針が一気に跳ね上がった。堪らない。

周りの景色はおろか、他の車すら後ろに流れていく。

ちんたら走る隣の車。見えたのは驚きに目を剥いたドライバーだ。驚け。俺が一番だ。

もちろん隣の奴の顔なんか、一瞬でサイドミラーの向こうに消える。

窓から空き缶を放り投げたって、似たようなもんだろっ。

カーブ。

風切るように俺は曲がる。

タイヤをアスファルトにこすりつける音が、小気味よく俺の耳に届いた。

高速道路を俺は車で駆け抜ける。いじりまくった、最高の車でだ。アクセルを踏みつける度に、ピストンが喜びの悲鳴を上げた。

ハンドルはとても気の利く相棒だ。

振り回されようと、急に切りかえそうとも、右に左にとご機嫌に尻を振って応えてくれる。

サスペンションは陽気に踊り、俺とクラクションでセッションする。

ギアはキレよく俺に応えた。

クラッチが合う度にメーターが跳ね上がり、新たな世界を切り開いていく。

流れる景色に、俺の心拍数も当然跳ね上がる。

何しろその流れる景色の中には、警察の車だって含まれている。ご機嫌だね。

俺はクラクションでそう叫ぶ。あんな車で、俺に追いつける訳がない。

止まりなさい。

ちんけな警官が、ちんたら走る車両で、陳腐な台詞を吐いてよこした。

追いつけないのだろう。拡声器で遠吠えするのが精一杯なのだ。制限速度を守りなさい。

知るか。制限速度なんて、知ったこつちゃねえよ。

その制限速度が道路脇にチラリと見えた。

全く足りない。

俺は率直にそう思う。

何てももの足りない制限速度だ。ママが決めた門限の方が、まだ気の利いてる上限だ。

奴らは諦めずに追ってくる。追ってくると言っても、見る見る後ろに下がっていく。

当たり前だ。俺の車に追いつける訳がない。

進路を塞ごうとしてか、前から次々と警察車両が現れた。

アクセルドカーン。ハンドルバーン。

俺はクラクションで叫び上げる。

サスペンションがきしみを上げて車体を支えると、タイヤが強引に路面をねじ伏せた。

ガソリンは喜びに沸き立ち、ピストンはご機嫌なダンスを踊る。

ブレーキだけがふて腐れたようにたたずんでいた。

制限速度を守りなさい。

懲りない奴らがまたもや拡声器でがなり立てる。

足りない。足りない。足りない。こんな制限速度じゃ、俺には全く足りない。

俺は制限速度など気にせず、アクセルをベタ踏みにした。

二手に分かれた道の一方を、警察車両が塞いでいた。

俺は慌てず騒がず、空いている道にハンドルを切る。

この道なんだ？ あったっけ、こんな道？

ああ、そつだ。いつもは閉鎖されてる道だ。ご機嫌なこの車で、いつも横目にしながら通り過ぎる道だ。

見慣れぬ景色が後ろに流れていく。見渡せば他の車が一切ない。はめられたか？ この先で待ち伏せでもしてるのか？

制限速度を守りなさい。

背後から、懲りずに奴らのがなり立ててくる。

知ったことか？ いけるところまでいくまでだ。

制限速度を守りなさい。

知るか。だから制限速度なんて、俺には全く足りねえって。

カーブ。

俺はハンドルを従えて、サスペンションをきしませる。タイヤが路面と不協和音を奏でた。

視界が悪い。カーブの先が見えない。

制限速度を守りなさい。

まだ言うか。

制限速度を守りなさい。このままでは全く足りない。

何がだ？ 何言ってるんだ、こいつら？

カーブを抜ける。視界が開けてくる。

制限速度を守りなさい。このままでは全く足りない。

警察車両のブレーキ音。諦めたのか、瞬く間にその姿が声とともに小さくなっていく。

俺の視界の端に、この道路の制限速度が飛び込んできた。

全く足りない。

なるほど、その通りだ。現れたカーブの向こうの道に、俺はそう思う。

制限速度は遙か上に設定されていた。ベタ踏みどころか、底抜けにアクセルを踏んでも俺の車じゃ無理だろう。

何がつて？

だから制限速度に、全く足りてなかったんだよ。俺の車の最高速度は。

だがもう遅い。車がグンと坂道を駆け上がった。

俺は制限速度以下のスピードで、その道に突っ込んでいく。

そう、制限速度の 下限以下のスピードで突っ込んでいく。

ジェットコースターのように空中で一回転している、そのおかしな道路に

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2262o/>

制限速度

2010年10月30日20時18分発行